

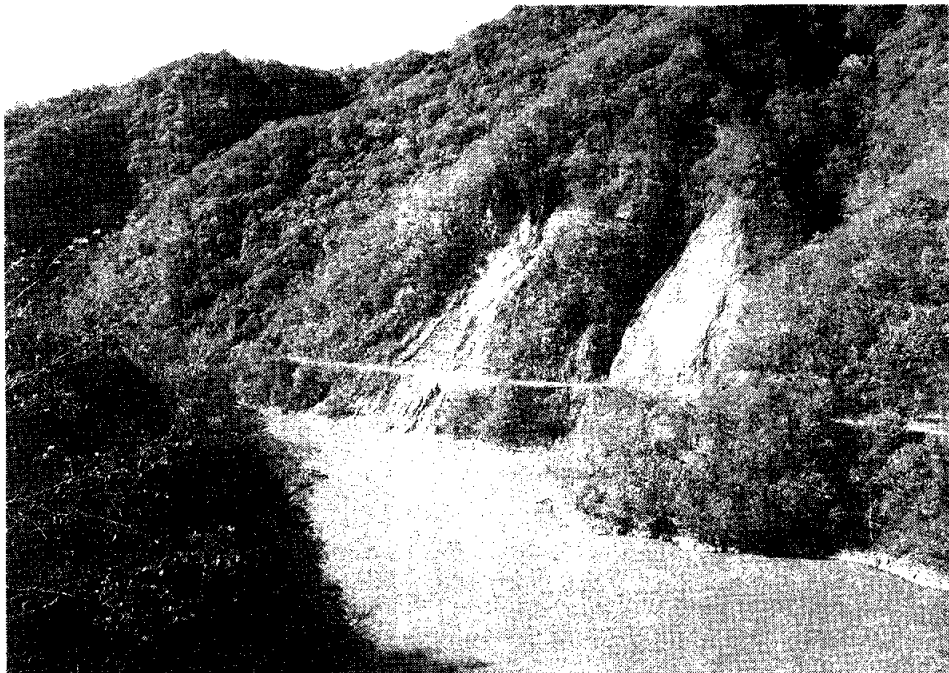
NCS HOKKAIDO

Nature Conservation
Society of Hokkaido

2001年11月 NO.114

..... CONTENTS

チヨットひとこと.....福地 郁子.....	2	2001年度総会要録.....	8
インタビュー.....八木 健三.....	3	あ・ら・か・る・と.....	10
エゾシカ問題公聴会意見書.....	4	活動日誌、要望書	
難しいエゾシカの個体数管理		JCBカードのお知らせ.....	11
前田 満.....	5	夏休み自然観察記録コンクール入賞者.....	12
各地のニュース.....	6		



2001. 10. 15 静内ダム上流 今野平支郎

自然ガイドについて

自然観察指導員の養成講座が、今年も9月14日から16日まで国営滝野すずらん丘陵公園青少年山の家において日本自然保護協会、北海道自然保護協会及び北海道自然観察協議会の共催（1981年より15回目）で開かれた。毎年多くの申込があり、今年も63名の方が受講し、全員指導員として登録された。当初の参加者は現役の教職員の方が多くを占めていたが、ここ数年は本業をリタイヤした方、就職時の付加価値を高めるためと思われる大学生などが多くなってきている。



自然観察指導員は自然観察を通して自然保護の考え方を普及するために自然の価値や自然と人との関係など、観察の中に多く取り入れた指導実習を受け、自然を守る行動が出来るボランティア指導員（ガイド）として各地で観察会を開いている。

2泊3日の受講で「指導員」とはあまりにも重いネーミングと感じられる方が多いようである。日本自然保護協会が指導員養成講座を開いてから23年の歴史があり、指導員という名称を通しては、その後のますますの研鑽を願ってのネーミングと考えた方がよさそうである。

北海道は2002年に「北海道の観光振興に関する条例」の施行を予定しており、その中の振興に関する行動計画の1つとして同年運用開始予定『北海道アウトドア資格認定制度』が検討されている。山岳、自然、カヌー、ラフティング、ホーストレッキングの5部門を「北海道アウトドアガイド」として認定する、観光産業界の判断基準が多く感じられる制度である。大きな問題は対象をプロとしているが、内容はアマ・ボランティアのガイドにまで波及され、判定によりプロガイドとして認定されるものである。

検討結果報告（中間報告）に対し当会、自然観察協議会は、ガイドの定義や理想像、基礎的資格などに自然保護の理念が見えない事、保護があつての利用でありオーバーユースへの歯止めが不十分、自然を守るための活動をしているボランティアガイドとプロとの整合性などを柱に意見として提出した経緯がある。

自然ガイド以外はスポーツ的要素が多く安全面から認定は必要かと思われるが、自然ガイドについては個人の識見や人間性が尊重され、特に自然に対する考え方が反映されるため、内容、対象範囲、実施時期など再検討が必要と思われる。

内容の検討もさる事ながら、名称だけでも「北海道観光アウトドアガイド」というネーミングにした方が指摘した多くの問題が整理されるのではなからうか。

既に車は動き出しているのなら、道はプロガイド制度を自然環境が保全されるよう、自然保護の視点で成熟したものに高める一方、ボランティア自然ガイドの活動も継続できるよう援助したり、助成をする方向の2本立で考えてほしいものである。

そして、どちらの自然ガイドも自然を大切にする人を一人でも多く増やす、大事な役目を持っていると自覚した活動をしてほしいと願っている。

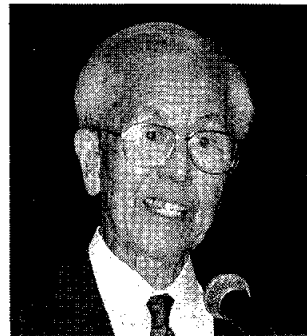
（常務理事・札幌市在住）

福^{ふく}
地^ち
郁^{いく}
子^こ

日本の森と自然を守る全国連絡会前会長

八木 健三 さんに聞く

略歴：1914年長野県に生まれる。理学博士。日本学会議会員
東北大学・北海道大学名誉教授。元北海道自然保護協会会長
著書「北の自然を守る」、共著「地学への道」「地球環境の諸問題」他



《第14回「日本の森と自然を守る全国集会 in 北海道」が無事終わりました。この集会を開くにあたり、一番心配だったことは、どんなことですか。》

■最も心配したことは、果たして何人出席するだろうかと参加者のことでした。

4日前に事務局長から「出席申込み130名」の報告を受けたとき、頭をかかえました。

《実際に集会が開かれ、一番うれしかったことは?》

■開会挨拶で壇上に立ったとき、600名収容の会場が、ほぼ満されていた(550名出席)のを見たことです。



それからどろ亀さんの個性豊かなトークと見事な演習林のビデオが、参加者に大きな感銘を与えてくれたことです。

《この集会が会長として最後の集会でしたね。長い間会長を勤め、一番印象に残ったことはどんなことですか?》

■1992年リオデジャネイロで開催された地球サミットに、連絡会の会員のカンパにより会長として出席の機会を与えられ、「森を守ろう」集会を開いて、大勢の外国代表と交流したこと。それを米沢で開かれた第5回全国集会で報告したことです。

《この集会を最後に会長をやめられ、この集会に願うことを一言お聞かせください。》

■この集会が全国各地で開催され、自然保護運動の交流と連帯に寄与することを、心から願います。

《どうもありがとうございました。インタビュアーは編集委員の大久保でした。》

エゾシカ問題公聴会意見書

1 意見

- | | | |
|----------|-------------------------|----|
| (1) 狩猟期間 | A地域の狩猟期間を1月31日までに短縮すること | 賛成 |
| (2) 捕獲頭数 | 1日1人当たりA地域3頭、B地域2頭とすること | 反対 |

2 理由

(1) 基本的な考え方

当協会としては、「エゾシカ保護管理計画」（平成12～14年度）に対し、計画の基本となる道東地域の推定生息数が、従来の12万頭から20万頭へ変更され、信頼度が損なわれたことに鑑み、「法的計画」とすることは時期尚早なので、「試行施策」に留めるべきで、法的計画には賛成できない旨の意見を、今年の当公聴会で陳述した。

しかし「エゾシカ保護管理計画」は現実にスタートした。道東地域における生息数が20万頭で正しいとし、自然増加率を15%（3万頭）とすると、平成7年度以降、毎年、自然増加数以上を捕獲し、とくに「道東エゾシカ保護管理計画」と「エゾシカ保護管理計画」の捕獲実績は、平成10、11、12年の3年累計で、18万6千頭を上回っている。この数字からは、生息数が大発生水準（個体指数50、10万頭）をすでに下回っていることをうかがわせる。したがって平成13年度の捕獲は控え目にすべきである。

(2) 狩猟期間と捕獲頭数制限

捕獲は控え目とする観点から、道東地域の狩猟期間を2月末から1月末に短縮することには賛成する。しかし1人1日当たりの捕獲頭数制限を、道東A地域3頭、B地域2頭に拡大することには反対である。

(3) 猛禽類などの生態系への配慮

道東地域の狩猟期間の短縮に、猛禽類の繁殖活動への配慮がなされたことには、賛意を表する。ただし平成12年度のワシ類鉛中毒の発生実態は、改善のきざしが見られない。このことは鉛ライフル弾の使用禁止にもかかわらず、それが遵守されていない実情を露呈したものと思われ、またエゾシカ死体や残滓の放置禁止も不徹底なことをうかがわせる。

このような実情で、捕獲頭数制限を緩和することは、鉛中毒発生を助長し、生態系に悪影響を与えることが懸念されるので、(2)のとおり、A地域3頭、B地域2頭に拡大することに反対する。

なお鉛弾の使用禁止、死体や残滓の放置禁止の徹底とともに、いっそうの現地管理体制の強化がなされなければならない。

(4) 狩猟者への依存度を軽減すること

「エゾシカ保護管理計画」の生息数コントロールは、狩猟に依存する部分が多い。しかし狩猟は、狩猟期間が終了狩猟者からの報告を集計した後に、はじめて捕獲数が明らかになるので、乱獲の恐れもあり、「計画」とは相容れない不確実さがある。また死体や残滓の処理の不徹底さの問題もある。したがって狩猟者への依存度を軽減し、行政の責任で行う有害鳥獣駆除に重点を置くべきである。

－難しいエゾシカの個体数管理－

「シカの捕獲の禁止および制限」公聴会を傍聴して

前田 満

今年の8月に、道自然環境課が事務方をつとめる「公聴会」を傍聴した。この会で「道案」に反対したのは道自然保護協会代表（俵会長）だけで、他の代表（市町村会・森林管理局・農協・森林組合・猟友会）は賛成した。協会の反対項目の中の「シカの捕獲頭数をハンター1人が1日当たりを3頭に増やす」点に絞って感想を述べたい。

この会で配られた道側の資料によれば、平成12年度には、道東でシカ捕獲数・農林業被害・個体数指数が共に減っている。それであれば、「エゾシカの保護管理」の指針にもとづき捕獲数を減らすべきだが、道案は逆に、2頭から3頭に増やした。私も疑問を感じ議長に質問の許可を求めたが「公聴会は質問を受ける場でない」と斥けられた。会が終わってから事務方をたずね、この分野の仕事に以前たずさわったものであることを名乗り、話し合った。またその後、研究者やハンターとも意見を交換した。以下に感想を要約する。

- (1) 地域ごとのシカ個体数調整（捕獲）をハンターに依存しているため、その成否のカギがハンター（動員力や利害、関心度）に握られている。それゆえ行政側は、シカのセンサス結果からの個体数水準を示すだけで、捕獲目標をかかげた上での頭数をハンターに押しつけることができず、ハンター1人1日の狩猟頭数を調節するくらいの役割しか果たせないでいる。また、近年、道東部から全道にシカの分布域が広がったが、これに対しても、ハンターに依存、これを誘導する以外に有効な手だてをもっていない。
- (2) 別の機会に詳しく述べたいが、小・中型哺乳動物の土地収容力を研究してきた経験から、「収容力」が現存する以上、軽微な狩猟圧は逆に個体群の若返りと数の回復を促し、餌場を探す季節的な移動力と生活圏の大きなエゾシカでは調整効果が上げにくいのではないと推論している。
- (3) シカ害に苦しむ農林業者からの要請と自然保護の立場からの批判の板挟みに立たされ、さらに、狩猟者に依存しながら、シカの個体数調整に苦悩する行政者に同情する。

<引用文献>

前田 満；エゾシカの保護と管理－ディア
ウオーズの戦略。森林保護272
(1999)

(元 森林総合研究所)



渡島大沼は、1893年（明治26）大沼で漁をする人々が、資源の管理を目的に漁業組合を結成し、漁獲で生計を立てる暮らしを始めたのが町の起源といわれています。

その後、大沼は、1903年の鉄道開通によって、風景が広く知られ、1915年には山紫水明の地として新日本三景に推薦され、人々の保養の場として発展してきました。

それには、大沼で獲れる鯉や鮒、わかさぎや蛭の料理が、訪れる人々の食の期待を損なうことなく、風景と相乗して寄与してきました。

このように、大沼の漁業は、この地域の人々の暮らしに深い関わりを持って、町の存在を支えてきました。

けれども、この7月、大沼国定公園内の沼でブラックバスが捕獲され、生息が確認されました。

漁業者は、大沼に拡散したら、漁業存亡の危機と不安におののいています。

本州各地の湖沼では、密放流されたバスが在来魚を食害して、漁業が成立しなくなった所があります。

例えば、琵琶湖では、バスが鮒の稚魚を喰ってしまうため、鮒が少なくなり、鮒漁業を消失してしまいました。鮒がなくては、伝統ある鮒ずしが作れませんから、バスは地域の大問題となっています。

同様に、大沼のへら鮒は、大きさや姿の美しさで、「日本一」とほめられています。

バスが生息するようになれば、琵琶湖のように鮒が少なくなり、従って訪れる釣り人もいない大沼になってしまいます。

また、内水面漁業の継続は、集水域の環境の保全の度合に左右されることから、地域の環境保全の状態を指標しているともいえます。それで、内水面漁業は流域の環境を保全する役割を担っていることにもなります。

大沼の漁業は、大沼の漁獲物を提供するという一面と、一方で、地域振興の基盤である地域の環境を保全し、水質を汚濁から守っていくという認識もあります。

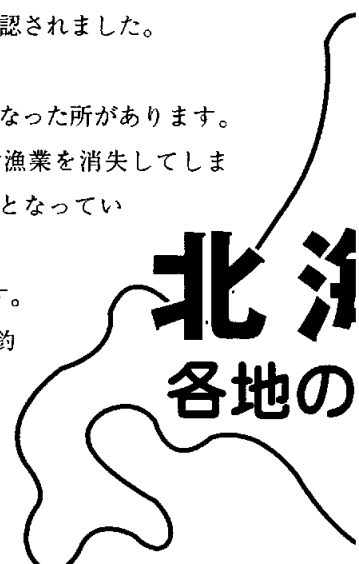
ですから、大沼の漁業は、大沼が保養の地として振興していくために、必要不可欠な、環境保全の守り役であるといえるでしょう。

けれども、ブラックバスは、小宇宙としての湖沼の生態系を破壊し、系の範ちゅうである漁業を消滅させてしまいます。

近年、世界的に生態系保全の大切さが主題として理解されてきました。

このような時代の背景に即応して、今北海道は、ブラックバス侵入問題の学習を通して、道民の意識啓発をめざす取組みに、可及的すみやかに努力していくことが求められます。

（会員 七飯町在住）



津別より

私は戦前、戦後を通じて自然と親しみ、かかわりあいをもって60年になる79歳6カ月の、自称“万年壮年”です。チミケップネイチャーコンサベーションクラブの創立者で、現在名誉会長として、会長はじめ若い世代の会員の指導にあっております。人生の目標を100歳として、2022年迄頑張るつもりであります。若い会員達と山野を跋涉しながら、彼等に自然学を体に染み覚えこませる事に努力しております。そして彼等に自然と共に生きる喜びをです。活動しているチミケップ湖周辺の山林は道有林で25,000haの中の、自然針広混交林15,000haがクラブの活動圏です。此処には野生鳥獣、植物、昆虫等が棲息しており、まさに自然の宝庫です。所管の道有林センターとは、長年穏やかな交渉を重ねて行なって、平成6年4月から、この自然林は公益林に改められて、以後育成保全に互いに協力しております。

現在、北海道には本当の原生林は残っておりません。知床の原生林は明治後期から昭和50年代迄80回以上拓伐した山です。

とにかく、経済面を優先させて、散々傷つけておいて、ある日突然放つたらかしにするのは自然保護ではなくて、ただの投げやりというやつです。人間は自然界の一コマです。自然と共生して行かねばなりません。故に自然の営みの中に人間の営みをどう調和させてゆくかという事を考えています。現在森林内は広範囲に少子化、老生化しています。全く吾々の社会現象そのままです。これをどうして行くか大きな課題です。
(会員 津別町在住)

北海道 ニュース

農道計画、概算要求せず!!

五十嵐 敏文

(フォーラム野幌の森代表)

北海道立自然公園である野幌の森を横断する農道計画が、中止の方向になりました。

10月12日、当会は北海道開発局札幌開発建設部と会合を行いました。この会合は先に提出した要望書(8月24日付け、概算要求取り止めを求めた)への回答を受けるもので、このなかで札幌開発建設部は「野幌東基本計画」の来年度の概算要求を見送った、と方針表明をしました。

理由は、岩見沢と栗沢の農協合併(H13年2月)により農産物の流通経路に変化が見込まれること、このことから農道予定ルートの一部区間で農業関係の交通量が全交通量の50%を下回ることが推測され、加えて農道の新設・改良に必要な条件(延長10km以上)が満たせなくなるためです。簡単に言えば、同ルートが状況の変化により農産物輸送道路として整備できない見込み、との理由です。

この計画は、土地改良(11億円)と農道整備(99億円)からなる公共事業でした。

平成11年8月、同計画を知らされて以来、10月15日の道庁交渉、同月30日の現地観察会の開催を皮切りに、要望書の提出、情報交換会議やフォーラムの開催、札幌三越前での街頭署名活動、北海道庁参りや札幌開発建設部参り等を淡々と行ない、同計画の中止を求めてきました。

この間、江別市内の多くの自然保護団体が「野幌の森を守る」ことで一致できたこと、北海道自然保護連合や北海道自然保護協会の支援が得られたこと、そして、未提出となる多くの署名協力がありました。

今となっては小泉内閣が公共事業の見直しを強く進めていること、北海道の財政が危機的状況にあることが追い風となったこともありましょう。こうしたことも含め事業が中止の方向になったのかも知れません。

しかし、仮にそのようなことが要因の一部だとしても、野幌の森を大切に思う多くの人々の意志に勝るものではありません。

野幌の森は、先人たちが守り、残してきた北海道の遺産です。先人たちの意志を脈々として受け継いで往きたいものです。

これまでのご支援、ご協力に深く感謝します。

(江別市在住)

2001年度通常総会要録

日時 2001年5月26日午後1時30分～3時

場所 道民活動センター（かでの2・7）

（札幌市中央区北2西7）

会長挨拶

本年度は、2001年で21世紀の初めの総会である。21世紀は環境の世紀といわれるが、自然保護・環境問題は時代と共に価値観が変わっている。当協会の10年前の重点は、リゾート、ゴルフ場問題だった。バブル経済下でいろんな所にリゾート・ゴルフ場が作られたため、反対を行ってきたが、いま破綻しているものが多い。この後協会では、千歳川放水路、土幌高原道路に取り組んだ。この結果、公共事業や治水対策の考えが変わってきている。今は日高横断道路や北方領土などに取り組んでいる。

10年前の協会は、委託費もあり予算が2千万から3千万円あったが今は規模が縮小している。事務局体制は、予算規模を考えると事務の簡素化をしていかなければならない。皆様からいただく会費を有効に使わせていただくため、事務局体制の縮小も考えたい。

第1号議案 2000年度事業報告および収支決算・監査

- (1) 2000年度事業報告について 俵会長から議案書に基づき説明があった。
- (2) 2000年度収支決算について 畠山副会長から議案書に基づき説明があった。
- (3) 2000年度監査報告について 大西監事から会計処理、事業などが適正に行われている旨が報告された。

◆第1号議案承認

第2号議案 2001年度事業計画及び収支予算

- (1) 2001年度事業計画について、俵会長から議案書に基づき提案があった。
- (2) 2001年度収支予算について、畠山副会長から議案書に基づき提案があった。

質疑

〈沖田会員〉

2000年度事業報告にも出ていたが、北方領土問題は、4島に絞らなくてもよいのではないかと。

〈俵会長〉

北方4島か、2島か、全島かにこだわっているのではない。この地域の自然には国境は無いという基本認識で、環境保全・自然保護を提言していく。

〈北区 門田会員〉

レイチェル・カーソンのセンス・オブ・ワンダー映画上映について。

〈高畑理事〉

上映権を取ることが出来なかったため、各地の上映映画を紹介する。

◇議案1：2000年度収支決算

決算報告（2000年4月1日から2001年3月31日まで）

一般会計

(円)

収入の部		支出の部	
勘定科目	決算額	勘定科目	決算額
(基本財産運用収入)	(3,360)	(管理費)	(4,950,766)
基本財産利息収入	3,360	賃金	2,405,400
(引当預金運用収入)	(1,139)	諸謝金	30,000
引当預金利息収入	1,139	退職金	0
(会費収入)	(5,972,880)	福利厚生費	72,650
個人会費収入	3,572,880	会議費	19,330
団体会費収入	2,400,000	旅費交通費	504,600
(一般事業収入)	(127,930)	通信運搬費	315,939
一般事業収入	127,930	消耗品費	238,930
(補助金収入)	(0)	印刷製本費	101,827
地方公共団体補助金収入	0	燃料費	32,006
(助成金収入)	(0)	光熱水料費	95,635
民間助成金収入	0	賃借料	875,328
(寄付金収入)	(273,127)	諸会費	85,500
寄付金収入	273,127	図書資料費	47,100
(雑収入)	(451,010)	支払手数料	2,270
受取利息	2,363	租税公課	114,899
雑収入	448,647	雑費	9,352
(繰入金収入)	(0)	(一般事業費)	(1,905,308)
繰入金収入	0	広報事業費	1,755,614
(引当預金取崩収入)	(0)	普及事業費	149,694
退職給与引当預金取崩収入	0	普及啓発事業費	0
(前期繰越収支差額)	(1,042,303)	(調査研究等事業費)	(13,580)
		(引当預金支出)	(230,000)
		退職給与引当預金支出	230,000
		(繰入金支出)	(0)
		繰入金支出	0
		(読本原価)	(5,800)
		(予備費)	(0)
収入合計 (A)	7,871,749	支出合計 (B)	7,105,454
		次期繰越収支差額 (C)	766,295
		(C)=(A)-(B)	

〈決算の概要説明〉

財政状況は、厳しい経済情勢の影響を受けて団体会員の退会が続き、収入は減少傾向にある。こうした中で、事務局を一人勤務体制として、人件費を抑制するとともに、JCB提携カードを導入して、収入および個人会員の増加を図った。また、調査研究等事業費を大幅に節約した。

〈西区 大淵会員〉

北海道自然保護協会の会員証を発行しないのか。

〈高畑理事〉

希望の会員の方に出せる様に検討したい。

〈熊木理事〉

きれいな写真の入ったJCB北海道自然保護協会カードがある。このカードは会員証ではないが、カードを作ったり、利用すると、会に少しのお金が入る。

〈南区 小林会員〉

町内会の役員をしており、環境に優しい地下鉄を引いてくれるように頼んでいるが、市は道路を作ると言う。藤の沢にもトンネル計画が出ている。身近な自然保護を取り上げて欲しい。

〈俵会長〉

「身近な自然」問題に取り組んでいる。地元の方からの情報と要望があれば、対応していきたい。

◆第2号議案承認

第3号議案 その他
質疑

〈八木元会長〉

「日本の森と自然を守る全国大会 in 北海道」の開催について、昨年第13回大会が新潟で実施され、今年の第14回大会は北海道で開催される。

〈北区 斉藤会員〉

八木先生の話した「日本の森と自然を守る全国大会 in 北海道」は。NCで連絡があるのか。

〈俵会長〉

実行委員会で計画を立てている、NC、ホームページで知らせる。日程は、10月13、14、15日で初日は札幌で講演会がある。

事務局体制が変わった。山辺さん、飯原さんを紹介する。

〈中央区 久野会員〉

北海道が「アウトドアガイド資格認定制度」を考えている。アウトドアガイドの資格の中に、ラフティング、登山、自然ガイド等が入っているが、資格認定する人の中に自然保護協会の人が入っていないので、自然を守る意見を出して欲しい。

〈俵会長〉

会員の中からも同様意見が出ていたので早急に要望書をまとめたい。
・その他、次のような要望・意見があった。

〈北区 斉藤会員〉

明日、北区福井清掃場の近くの湿

地で、イトトンボの引っ越しを行うのでバケツを持って集まって欲しい。集合時間9時です。

〈オホーツク津別 塚部会員〉

森林は若木がなくなり、森林の役を果たしていない。昔は人害で山は荒れ、今は鹿の害で荒れている。現地からの情報としてお知らせする。

〈ニセコ自然観察指導員 熊末会員〉

ニセコアンヌプリの急斜面を、マウンテンバイクで走っている人がいる。アウトドアを楽しむ人が増えているがマナーが悪い。協会でもこの事に取り組んで欲しい。

◆3号議案承認

◇議案2：2001年度収支予算

予算計画（2001年4月1日から2002年3月31日まで）

一般会計

(円)

収入の部		支出の部	
勘定科目	予算額	勘定科目	予算額
(基本財産運用収入)	(3,360)	(管理費)	(5,512,000)
基本財産利息収入	3,360	賃金	1,700,000
(引当預金運用収入)	(77)	諸謝金	30,000
引当預金利息収入	77	退職金	1,254,000
(会費収入)	(6,200,000)	福利厚生費	79,000
個人会費収入	3,800,000	会議費	50,000
団体会費収入	2,400,000	旅費交通費	428,000
(一般事業収入)	(200,000)	通信運搬費	330,000
一般事業収入	200,000	消耗品費	250,000
(補助金収入)	(0)	印刷製本費	80,000
地方公共団体補助金収入	0	燃料費	30,000
(助成金収入)	(0)	光熱水料費	110,000
民間助成金収入	0	賃借料	900,000
(寄付金収入)	(100,000)	諸会費	86,000
寄付金収入	100,000	図書資料費	50,000
(雑収入)	(363,500)	支払手数料	10,000
受取利息	3,500	租税公課	100,000
雑収入	360,000	雑費	25,000
(繰入金収入)	(0)	(一般事業費)	(2,150,000)
繰入金収入	0	広報事業費	1,750,000
(引当預金取崩収入)	(1,170,000)	普及事業費	400,000
退職給与引当預金取崩収入	1,170,000	普及啓発事業費	0
		(調査研究等事業費)	(400,000)
		(引当預金支出)	(0)
		退職給与引当預金支出	0
		(繰入金支出)	(0)
		繰入金支出	0
		(予備費)	(741,232)
当期収入合計	8,036,937		
前期繰越収支差額	766,295	当期支出合計	8,803,232
収入合計			

〈予算案の概要説明〉

事務局長の退職に伴う退職金を予算に計上した。業務の省力化・合理化により、人件費をさらに抑制することとした。その一部は、公益活動の強化を図るため、普及事業費、調査研究事業費にふりむけた。JCB提携カードからの収入は、その実績を見てから勘定科目に計上する。

新刊紹介

「山っ子の村 - 北の国の子どもたち」

山村輝夫 文・絵 福音館の科学シリーズ ¥ 1,470円 31×23cm

左の頁には本文とキャプション付きの飾り絵があり、右頁には一面迫力満点の絵が載っています。この見開きを読み、ながめ終わるのに15分以上はかかります。ダイナミックな絵からは、なつかしさや、ほのぼのとした想いが漂ってくるからふしぎです。同行取材で判ったのですが、郷愁漂う世界は、21世紀の現代にも続いているから驚きますし、40～50年で世の中変わるものではない事に、ほっとしました。(小学校上級から)



新会員紹介

2001・7から2001・10まで

【A会員】

真鍋 茂	平澤 拓生	柳瀬香保里	竹内 健悟
山崎 毅匡	中野 嘉陽	奥川和三郎	石村 恒夫
横山 武彦	北村 光雄	野原サダ子	田中 節子
大嶋 正紀	林 迪子	成田ひろ子	谷津 弘子
遠藤 哲則	宗像 英明	池田 厚	徳原 和子
太田 厚	運野 淳	江森 宝子	川松 佳里
山田 高嗣	高橋 知里	高野 裕太	湯浅 みや
砂子 賢郎	伊東多美子	春口 順雄	伊藤 勲
草薨 健一	鳥沢 哲子	牛崎 方恵	吉田 洋二
三浦美恵子	加藤欣三郎	西川 准次	世永 正明
水上 勝夫	森 幸佑	阿部 雅之	

【学生会員】

千徳あす香 原田 圭子 山城 葵

寄付金

8月	畠山 武道	10,000円
11月	富士ゼロックス端数倶楽部	100,000円
	富士ゼロックス株式会社	100,000円

「日高横断道路を考える」シンポジウム

2002年3月2日(土) 13:00～17:00
北大クラーク会館講堂

羊ヶ丘ライオンズクラブと 合同で植樹祭

11月10日(土)、札幌市拓北緑地で羊ヶ丘ライオンズクラブ環境保全アクティビティとして植樹を行いました。苗木費用は羊ヶ丘ライオンズクラブから寄贈を受けました。ありがとうございました。

感謝状

社団法人北海道自然保護協会
会長 依 浩三様

貴会がかねて緑あふれる街づくりに深い関心をもたれこのたび緑化事業用として樹木を御寄附されましたことは本市の緑化行政に大きく寄与するものであります

ここに深く感謝の意を表します

平成13年11月10日

札幌市長 桂 信雄

活動日誌

2001年7月

7日：第1回理事会

2001年8月

2日：国際自動車ラリー反対要望書を森林
管理署・道有林管理センターに提出

21日：第2回拡大常務理事会

2001年9月

14日～16日：第302回NACS-J自然観察指
導員講習会（札幌市滝野）

26日：第8回自然観察記録コンクール審査

29日：第2回理事会

2001年10月

13日～15日：「日本の森と自然を守る全国
集会 in 北海道」開催

25日：第3回拡大常務理事会

27日：「野生動物の油汚染救護シンポジウ
ム」札幌・しんきん健保会館

要望書など

■2001年8月14日

道知事宛「狩猟鳥獣の捕獲の禁止、特定鳥
獣の捕獲の禁止及び制限に係る意見書」

■2001年10月26日

道知事より回答書「日高横断道路の『政策
アセス・再評価』に関連する質問書（2001・
6・27）」への回答

野生動物油汚染救護シンポジウム

10月27日(土)札幌しんきん健保会館で開催さ
れました。アメリカからポール・ニューマン
博士を呼んで、ナホトカ号事故の報告とパネ
ルディスカッションを行った。カリフォルニ
アの進んだ救護体制からみて、想定されるサ
ハリン沖油田からの流出事故に対する対策が、
早急に整備される必要があることが話し合わ
れた。

「JCB提携カード」のお知らせ

自然を守るためにささやかな協力を！

- 日本野鳥の会や道新野生生物基金などで導入している「JCB提携カード」を、北海道自然保護協会でも導入することになりました。
- 12月1日に募集開始の予定です。
- 協会会員以外の方にも広く募集しますのでご協力ください。
- JCBカードを持つ予定の方は是非「JCB提携カード」で入会してください。（すでにJCBカードを持っている方も重複して入会できます。）
- 入会申込み書は次回のNC（会報）に同封してお送りする予定です。
- JCB提携カードに入会すると、貴方の買い物金額の約0.4%がJCBから協会へ支払われます。（会員の負担はありません）

JCB提携カード



- 「JCB提携カード」の機能は通常のJCBカードと同じです。（機能についてはJCBへ問い合わせてください）

* お知らせコーナー *

第8回夏休み
 自然観察記録コンクール入賞者

応募数 72点
 審査日 2001年9月26日
 審査員 谷 博 (北海道新聞野生生物基金事務局長)
 鮫島惇一郎 (自然環境研究室主宰)、
 俵 浩三 (北海道自然保護協会会長)、
 佐藤 謙 (同副会長)、伊達佐重 (同常務理事)、
 熊木大仁 (同常務理事)、福地郁子 (同常務理事)、
 大久保フヨ (同理事)

「会誌の原稿募集」

12月15日まで、会員からのお便り(会員通信)の原稿を募集しています。字数は400~800字で内容は自由です。

「ホームページ*
 入力ボランティア募集」

ホームページは好評で3,200名の方に見ていただきました。パソコン管理にボランティアを必要としています。ご協力いただける方はご連絡ください。当協会のメールアドレス**は下記の通りです。

*<http://www.jade.dti.ne.jp/~nchokkai/>

**nchokkai@jade.dti.ne.jp

会員拡大期間、これから入会していただく方には会費は2002年度分からとする特例措置をとります。募ってご勧誘下さい。

会費納入のお願い

会費納入については日頃ご協力をいただいておりますが、未納の方は至急納入下さいませようをお願いいたします。

個人A会員	4,000円
個人B会員	2,000円
(A会員と同一世帯の会員)	
学生会員	2,000円
団体会員 1口	15,000円

〔会費納入方法〕

郵便振替口座	02710-7-4055
北洋銀行大通支店(普通)	0017259
北海道銀行本店(普通)	0101444
札幌銀行本店(普通)	418891

全賞 1名

浜本 健汰 (苫小牧市立豊川小学校・3年) オオムラサキの一生

銀賞 2名

小野 歩 (札幌市立羊丘小学校・1年) かぶとむしのけんきゅう
 秋葉 凜樹 (函館市立東山小学校・3年) ばくの宝物

銅賞 6名

山本 一将 (教育大付属函館小学校・2年) 生命の不思議 (ザリガニ、オタマジャクシ、カブト虫、くわがた)
 竹中 諒 (札幌市立信濃小学校・5年) 自然の観察、鳥、虫、植物
 鈴木 天理 (滝川市立東小学校・2年) ぼくとトノサマバッタ
 江連 由唯 (苫小牧市立豊川小学校・3年) 自然観察/タンポポの世界をくわしく知ろう!!
 土井みずき (函館市立金堀小学校・3年) 自然の花
 永田 友理 (函館市立北美原小学校・2年) 夏休みに出会った生きものたち

佳作 20名

渡辺 詠虹 (旭川市立春光小学校・2年) はさみ虫
 種市 彩花 (釧路市立愛国小学校・4年) フクロウの不思議
 鈴木 生 (栗山町立栗山小学校・3年) こんな、こん虫を飼ったよ!
 一家 瑞恵 (恵庭市立若草小学校・2年) 野生のハムスターとうちのハムスター
 小上 拓也 (札幌市立あいの里西小学校・4年) ホタル・光のひみつ
 松山 倫之 (札幌市立宮の森小学校・5年) ミヤマクワガタ
 吉田 佑実 (札幌市立川北小学校・2年) かたつむりのつむちゃんかんさつにつき
 大嶋 崇史 (札幌市立登寒東小学校・3年) カニのかんさつ記ろく
 坂 昌樹 (札幌市立緑丘小学校・2年) くものすにひっかかっていた虫たち
 坂 和優 (札幌市立緑丘小学校・6年) 町の虫と田舎の虫
 木谷空見子 (札幌町立士幌小学校・5年) 西クマネシリ岳の花々
 澤田 真輝 (帯広市立柏小学校・3年) すず虫のかんさつにつき
 光畑 元晴 (中富良野町立宇文小学校・6年) カブト虫の特徴
 山崎 静香 (長沼町立長沼中央小学校・5年) 山菜に似ている毒草
 尾野正一郎 (白老町立緑丘小学校・5年) 白老でとったキノコの観察記録
 脇谷まなみ (函館市立東小学校・2年) ミントマトプチエールのかんさつ
 柳田 裕美 (函館市立東川小学校・3年) おもちゃかぼちゃ日記
 稲葉 貴子 (函館市立柏野小学校・6年) 函館山の植物の春夏秋冬
 成ヶ沢祐香 (函館市立本通小学校・3年) おたまじゃくしのかんさつ(ウシガエル)
 石上 祥子 (余市町立大川小学校・1年) ありのかんさつ

特別賞 1名

伊藤 結美 (恵庭市立若草小学校・6年) 大型土壌動物の研究

学校賞 2校

恵庭市立若草小学校、苫小牧市立豊川小学校

※ この紙は再生紙を使用しています。

